

2026 年度 A0 選抜入学試験

映像学部「プレゼンテーション方式（映像撮影型、絵コンテ作画型）」講評

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数

プレゼンテーション方式／映像撮影型

学科	志願者数	1次選考 合格者数	2次選考（最終） 合格者数
映像学科	62	21	15

プレゼンテーション方式／絵コンテ作画型

学科	志願者数	1次選考 合格者数	2次選考（最終） 合格者数
映像学科	28	15	10

(2) 入試目的

映像を多面的に評価または表現できる能力に優れ、映像関連分野で活躍することに強い意欲を持つ学生を受け入れることを目的として、出願書類の審査による第1次選考と、映像撮影型および絵コンテ作画型という2種類の型を採用した第2次選考により、評価をおこないました。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

第1次選考は2種類の出願書類によって構成されています。1点目は、自らの成長につながったと思われるこれまでの映像に関わる経験について具体的に記入する項目、映像に関わって今後どのように成長したいかを記入する項目、映像学部でどのように学びたいかを記入する項目の3項目からなるエントリーシートです。2点目は、指示された設定をもとに、指定の文字数以内で物語を創作し、物語の一場面を表現するために自らが撮影した「写真」、または作成した「絵」を添付する課題（物語制作）です。

(2) 第2次選考

映像撮影型は、与えられたテーマを表現する写真を撮影し、それらを順番に並べて作品を制作し、その解説文章を作成する実技試験です。

絵コンテ作画型は、与えられた課題に対して、絵コンテ（絵および説明文）を作成する実技試験です。

3. 出題意図

(1) 第1次選考

エントリーシートでは、映像に関わる過去の経験の多様性、これまでの成長に対する自己評価のあり方、将来像の明確性、映像学部での学びへの意欲等を評価することを意図しました。

課題（物語制作）では、指示された設定をもとに、映像作品化を前提とした物語を自分の

考えで創作できているかどうか、および視覚化できているかどうかを評価することを意図しました。

(2) 第2次選考

映像撮影型では、個々の写真の撮影技術だけではなく、複数の写真で作品を構成することにより「映像で表現する力」がいかにか発揮されているかを評価することを意図しました。

絵コンテ作画型では、作成した絵コンテ（絵および説明文）によって、映像をイメージさせる表現力がいかにか発揮されているかを評価することを意図しました。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

エントリーシートでは、これまでの映像制作や映像鑑賞など、自らの成長につながったと思われる映像に関わる経験と将来像との結びつきや、将来像に近づくために必要な具体的な科目名等を含む学習計画、ならびにそれらを実現することへの意欲などを評価しました。

課題（物語制作）では、物語創作の視点やアイデア等の構想力、映像作品化を前提とした物語の構成力、ならびに文章力および映像表現力があるかを評価しました。

(2) 第2次選考

映像撮影型では、適切な構成、被写体を用いた効果的な撮影技術によって、テーマを十分に表現できているかを評価しました。また、解説文章については、課題の内容把握と理解、言語表現力等を評価しました。

絵コンテ作画型では、独創的な視点、全体を的確に構成する力、効果的な構図の作成力・作画力を評価しました。また、解説文章については、課題の内容把握と理解、言語表現力等を評価しました。

いずれの試験型も、プレゼンテーションおよび面接においては、自分の言葉で考えを伝えることができているか、時間内に意見がまとめられているか、質疑に対する的確に回答できているか、映像学部で学ぶ意欲について筋立てて説明できているかなどを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

エントリーシートでは、映像に関わる過去の経験とそこから得た成長が具体的に記述され、それを踏まえて将来像が明確になっており、映像学部での学びの計画との一貫性を感じられる解答が多く見られました。受験生の多くは、部活等での映像制作や独学による映像制作をはじめ、学内および学外のイベントにおける映像上映・企画ならびにウェブ配信などの経験を示していました。そのうえで、映像学部での学びを通して多様な映像経験を蓄積し、卒業後も自身の考えや思いを映像を通して多くの人に伝えていきたいといった映像分野におけるキャリアを見据えたビジョンを示していました。

一方で、映像に関わる経験や映像学部での科目を具体的に記述していないものや、学びの計画が漠然としたもの、過去の経験と将来像、映像学部での学びに一貫性を読み取ることができないものもありました。

課題（物語制作）では、独自の発想による構想力をもとに、独創的な構成を用いて、映像化を意識した創作物が見られました。一方で、登場する人や物を単に変更しているだけのものなど、独自の工夫が不十分な創作物も見られました。また、反対に原案の物語の主題からかけ離れているものや、話の構成が複雑になりすぎて話の筋が分かりにくいものが見られ

ました。添付された写真および絵については、場面を選択した理由や表現の意図を明確に説明しながら、緻密な映像表現や効果的な表現方法を用いた創作物が見られました。一方、写真や絵によって場面が十分に表現できていないものや、場面を選んだ意図を明確に文章化できていないものがありました。

(2) 第2次選考

映像撮影型の実技試験では、受験生各々がテーマについて考え、撮影に工夫をする姿が見られました。今年度は皆、段取り良く撮影し終了時刻ぎりぎりまで粘る受験生はいませんでした。撮影の際には、構図、カメラポジション、照明などを工夫し、撮影可能領域内にある物を上手に活用するなど、構成上、効果的な写真を撮影しようとする姿勢が見られました。複数の写真の構成によりテーマを効果的に表現している作品、テーマに対する自身の考えを強く押し出した作品など、多様な解答がありました。小道具や照明の使用を工夫し、独創性が感じられる作品もありました。一方で、テーマを十分表現できていないもの、解説文章で補足しても意図が明確でないもの、タイトルに工夫が見られず独創性が弱いものも見られました。

絵コンテ作画型では、受験生全員が時間内に絵コンテ（絵および説明文）を描き上げることができていました。題材から着想されたイメージを、効果的な構図や適切な絵の構成で表現した解答が見られました。その一方で、構図や絵の構成が創作意図を明確に伝えきれていなかった解答や、単にストーリーの説明に終始してしまい映像表現の工夫が足りていない解答も見られました。

2つの試験型とも、プレゼンテーションおよび面接においては、自らの創作物について、限られた時間内において自らの言葉で説明できていたケースが多く見られました。一方で、どのような意図や表現手法を用いたのかを明確に説得力を持って説明できない、自分の将来に対するビジョンをはっきりと示せない、あるいは、単にあらかじめ暗記してきた内容をそのまま発表していたように見受けられた受験生もいました。この他に、面接官の質問に対する応答に的確性を欠く、または積極性・主体性を感じることができない受験生もいました。

6. 次年度以降の受験生へのアドバイス

(1) 第1次選考

エントリーシートでは、まず映像に関わる過去の経験を振り返り、どのような成長があったのか見つけ出してください。そのうえで、その成長の先にある将来像を具体的に検討し、そこに向かうために映像学部で何を学びたいのかを考え、科目名を複数あげるなど、具体的な学習計画を立ててみてください。そのためには、映像学部のカリキュラムについて事前によく調べておく必要があります。公式ホームページおよび SNS、学部パンフレットやオープンキャンパスなど、様々な方法を積極的に活用しましょう。

課題（物語制作）では、起承転結など、基本的な物語の構成や構造についてよく考えてください。そして、どのような登場人物が、どのような行動をとり、その結果として、その物語が何を伝えているのかを意識しながら、映像作品を鑑賞してみてください。また、映像制作や鑑賞などの実践を通して、コマ割りや構図、照明などの映像的表現について理解を深めるよう努力してください。映像表現力を養うためには、普段から写真を撮ったり、絵を描いたりすることで、制作のためのスキル向上を図るようにしてください。また、物語や自分の考えを文章で的確に表現するために、普段から文章を書くことで日本語文章力の向上を図るようにしてください。

(2) 第2次選考

映像撮影型では、普段から、多様なジャンルの映像作品を、そこで活用される映像技法に注目しながら鑑賞してください。身近な撮影機器で撮影をおこなう際に、一般的な撮影方法について修得しておくことと合わせて、自分のイメージを表現するにはどのような撮影、照明をすれば良いか、また複数の写真を順に並べて作品を構成することで何が伝えられるのかを考察してください。物事を色々な角度から観察することや、視覚的な表現力を磨くことも重要でしょう。また映像だけではなく幅広い芸術作品に触れて創造性を養ってください。

絵コンテ作画型では、カット割りや構図などに着目しながら多様なジャンルの映像作品を鑑賞してください。また、人や物など様々な題材の特徴を的確に捉える観察力を養ってください。表現したい場面の内容をきちんと伝えられるための作画力を育むこと、コマの繋がり、見せ場を考慮して効果的な映像表現ができるような練習も行ってください。そのために、広く映像作品に出会い、創造性の幅を広げながら模写をするなど、日常的に絵を描く習慣を身につけてください。

2つの試験型とも、プレゼンテーションおよび面接においては、自身の考えを、自分の言葉で分かりやすく伝えることができるようにしてください。

以上